



最近猛威をふるっているマイコプラズマ肺炎。どんな病気なのでしょう？

今回のテーマ

《 マイコプラズマ肺炎 》



マイコプラズマ肺炎はウイルスと細菌の中間に位置する病原体であるマイコプラズマ・ニューモニエの感染で起こる肺炎です。主に幼少期から青年期に多く見られ、潜伏期間は2～3週間で、症状としては全身倦怠感・発熱・頭痛等です。特徴的な症状である咳は3～5日目より始まる事が多く、乾性の咳が経過に従って徐々に増強し、解熱後も長期にわたって(3～4週間)持続します。

治療には抗生剤が使われます。細菌は体を保つために外側に膜のような壁があるのが特徴です。ペニシリン、セフェム系などはこの壁を壊すことで細菌の増殖を抑えますが、マイコプラズマ肺炎では細菌のもつ壁がありません。よってこれらの抗生剤では効果はありません。マイコプラズマ肺炎に効く抗生剤はマクロライド系抗生剤、テトラサイクリン系抗生剤、ニューキノロン系抗生剤等です。

一番多く使われるマクロライド系の抗生剤には、エリスロシン、クラリス、ジスロマック等色々あります。子供にも服用しやすいドライシロップ剤(甘い味がする散剤)もあります。ただし、スポーツドリンク、フルーツジュース、ヨーグルトなど酸味のあるものと混ぜてしまうと苦味が増強することがありますので注意が必要です。また、他のお薬と飲み合わせが悪いものもあります。受診の際には、かかりつけの先生または薬剤師に現在服用中のお薬を伝えてください。

マイコプラズマ肺炎は予防が大変重要です。予防法は一般的な風邪やインフルエンザなどと同じです。マイコプラズマ肺炎が流行している時は、うがい・手洗いを徹底して、十分な睡眠と栄養をとって、人混みはなるべく避けることが大切です。

早期の治療が望ましいので、少しでも気になる症状がありましたら早めの受診をお勧めします。

